

なび

盤上の戦い 学びの場

サイコロや駒、カードなどを使って遊ぶボードゲームが注目されている。学校の授業や企業の研修といった「遊び」の域を越えた利用も始まっている。「ボケモンGO」のようなスマートフォン上のゲームアプリが全盛のいま、「古典的」な響きがあるボードゲームの何が人々をひきつけているのか。(杉浦まり)



ボードゲームカフェでゲームを楽しむ杉浦まり記者(左)(東京都渋谷区)

9月上旬の平日、午後7時過ぎ。仕事を終えたサラリーマンたちが、東京都渋谷区宇田川町のカフェ「JELLY JELLY CAFE渋谷店」に集まってきた。酒やソフトドリンクを飲みながら、店が取りそろえた約380種類のボードゲームで自由に遊ぶことができるという。「これ、一緒にやりません?」。2度目の来店という品川区の会社員、笠原時生さん(24)が誘ってくれたのは「キャンティストップ」。八角形の盤に三つの駒を置き、サイコロを振って先にゴールさせれば勝ちというゲームだ。店員も交えて3人でサイコロの出目に一喜一憂していると、あっという間に1時間が過ぎた。

小学生に思考力 * 会社員に営業力



「顔の見えないSNS(ソーシャル・ネット・ワーキング・サービス)によるやり

「顔の見えないSNS(ソーシャル・ネット・ワーキング・サービス)によるやり

とりが増えるなか、集まって遊ぶボードゲームが再評価されている。ボードゲーム開発・販売「アークライト」(千代田区)の刈谷圭司さん(44)はそう分析す

「お前、結構やるなあ」「勝ったー!」「先生、いい勝負だったよ」。歓声が響く教室をのぞくと、児童約20人が2人ずつ向かい合いい、オセロに似た陣取りゲームに挑戦していた。「子供が熱中できるゲームを使い、論理的思考力を育てることが目標です」と

同社が東京などで開いている国内有数のボードゲームイベント「ゲームマーケット」の来場者は、10年前の10倍に増え、今春は1万人を突破。女性や家族連れも増えているという。埼玉県狭山市の私立西武学園文理小学校は2011年から、3、4年生の総合学習で、市販されている複数のボードゲームを教材に使っている。



「営業ゲーム」を使った研修に夢中になる若手社員たち(東京都千代田区で)

企業向けの研修を請け負う「マーケットワイウィッド」(中央区銀座)は、営業職向けのボードゲームを開発。これまでに医療機器メーカーやIT企業、ホテルなどの研修で活用してきた。

川上健吾教諭(36)が解説してくれた。目標に近づいためにいま何をすべきか、考える力が身に付くという。勝利を取めた4年の板垣斗空君(10)は「相手の作戦を予想しておとりの備えたい、攻めと守りのバランスを考えたりするのが楽しかった」と話し、目を輝かせていた。

子供の頃、家族でよく遊んだボードゲーム。勝ち負けや楽しさに目が行って引けや、自然に思考力や駆け引きを学んでいたのかもしれない。ゲームの腕を磨けば取材の腕も上がるかも、なんて考え始めている。

7月下旬、都内で行われたある企業の社員研修では、入社1、20年目の社員16人が「1人1億5000万円、全体で24億円の売り上げ達成」を目指した。研修の最後に、「目標達成」が発表されると、参加者ははっとした様子。「トップ営業」に輝いた男性社員は「自分を見つめ直す良い機会になり、自信が持てた」と話していた。

出る営業の仕事を見える化し、体系的に学べる方法はないかと考え、講義形式でなく、楽しく学べるゲームという手法に行き着いた。ゲームの目標は「1時間内に売り上げを伸ばすこと」。市場の動きを示すカードやトラップが書かれたカードを引きながら、商談の案件に見立てたコインを「受注」というゴールに近づける。